

# 幼児と保護者によるごっこ遊びの相互行為

## 一日常場面に関する知識の利用に着目して一

居關友里子・小磯花絵（国立国語研究所）

### \*はじめに\*

#### 本研究が注目するもの1: 「ごっこ遊び」

- ❖ ままごとやおみせやさんごっこなど、子どもが好んで行う遊びの一つ
- ❖ 明神（2005）：遊びの素材、イメージ、テーマは具体的・現実的であり、日常生活経験を反映している

#### 本研究が注目するもの2: 「遊びの中に現れる日常の経験や知識」

- ❖ 松原ほか（2022）：模倣は学びの一形態であり、実生活での学びにおいては観察学習が重要な位置を占める
- ❖ =日常生活の中で経験する様々な場면을扱ったごっこ遊びは、この学習過程・成果を反映していると考えられる

#### 本研究の目的:

- ❖ 子ども-保護者間で行われた会話音声・映像データを観察、記述
- ❖ ごっこ遊びにおいて日常場面に関する知識がどのように用いられているのか考察

### \*データ\*

#### 『子ども版日本語日常会話コーパス（仮）』（小磯ほか, 2022）

- ❖ 国立国語研究所で現在構築中
- ❖ 調査協力世帯の子どもが両親、祖父母、友人たちなどとの間で交わした日常でのやり取りを一定期間継続して録音・録画

#### 本研究の観察対象児: ユウ（Y001）

- ❖ 2歳6ヶ月から3歳1ヶ月の間に収録した11時間25分のデータ
- ❖ 子どもの月齢とごっこ遊び（小山, 1998; 多田ほか, 2009）
- ❖ 2歳頃: 見立て遊びやふり遊びをはじめ
- ❖ 3歳頃: ごっこ遊びの原型を示し始める
- ❖ =今回の対象: **ごっこ遊びの原型ができるかできないかの時点**
- ❖ 保護者（両親・祖母）とともにごっこ遊び（模倣の対象: 日常場面）をしている箇所を抽出

▶▶▶ 目立って観察されたもの: 当該場面や特定の役割に紐付いた挨拶表現・定型表現の使用・典型的な振る舞い（行為）の情報

### \*設定の共有と交渉\*

#### 【事例2】 並んで（Y001\_026, 3歳0ヶ月）

01 ユウ: ▶ はい.(0.6)お持ち帰りていいですか?  
02 祖母: はい.持ち帰りま:す.  
03 (0.8)  
04 ユウ: ▶ **いらっしやいませ::ってユウちゃんが言う.**  
05 祖母: **はいいい↑らっしやいませ::ユウ[ちゃん\_**  
06 ユウ: [ねえ.  
07 ユウ: ↑ねえ.モモ-モモちゃんここ[に:.,立って?:  
08 祖母: [うん.  
09 (0.6)  
10 祖母: え::ど:↓こ:.[よいしょ.((立ち上がる))  
11 ユウ: [(立って )  
12 (0.4)  
13 ユウ: ▶ **立って人がいるから並んで?**  
14 祖母: あそうなの?並ぶの知ってるんだ.  
15 母: ↑HAHAHA((別室から))  
16 ユウ: **人がいるからな[らんで?**  
17 祖母: [あらそ:お?はい.

前文脈: ユウはお遣い役/祖母がそれを依頼

❖ →ユウ(L01): 「お持ち帰りていいですか?」

❖ →互いの役が互いによくわからない状況

交渉開始:

❖ ユウ: **自身の希望する店員役を店員が用いる定型表現「いらっしやいませ:: (L04)」を「ユウちゃんが言う. (L04)」という表現によって提示**

❖ 祖母: 定型表現が店員役を指していることを理解/誰がやるかについては誤解

更に交渉:

❖ ユウ: 祖母に店のそばに来よう促す+依頼 **「立って人がいるから並んで? (L13)」**

❖ →客の役割に結びついた典型的な振る舞いの知識

❖ 祖母: この知識を妥当なものとして評価 (L14)

❖ →ユウの希望に沿ってごっこ遊び継続

#### 【事例6】 たたたたーって来て（Y001\_014, 2歳10ヶ月）

01 父: だからエクセルは間違[い° だって°.  
02 ユウ: [ねえパ:パ:.  
06 ユウ: ▶ **たたたたた:って.hhここまで:h座って.**  
09 ユウ: ▶ **ユウちゃんが:(1.0)パ:パおきくなつたねえって>できるか(ら).<**  
10 父: **ehehehe どうゆうこと?**  
11 (2.4)  
12 ユウ: **ねえママたたた:って来てパ:パ.**  
14 父: パパ?  
16 父: 上乘ってよ(上にじゃあ.)  
18 父: ↓これでこよやかなじゃあ.  
(床に寝そべったまま身体の向きを変える))  
20 父: い::よいしょ.どうどうどう↑どうどう.来たよ.  
(匍匐前進でカメラに近寄る))  
22 ユウ: ▶ **も(う近く.)(1.4)(もう近く.)**  
24 父: もう一回来んの?  
26 ユウ: えっと\_  
27 父: うん.  
28 ユウ: ▶ **ここまで来る.**

前文脈: ユウは収録用ビデオカメラ背面の液晶モニターから部屋や自分の写りをチェック/両親は仕事の会話中

交渉開始:

❖ ユウ: 一連の振る舞いを実演、**ホームビデオという言葉を用いずに文脈共有を試みる**

❖ →ビデオは成長を記録、見せるためのもの

❖ →「**ホームビデオらしさ**」に対するユウの理解の反映

❖ →配役は父親が子ども役、ユウがビデオを見る大人役

❖ 父: ユウの意図がわからないことを表示 (L10)

更に交渉:

❖ ユウ: 指示を反復・具体化 (L12) (L22,28,30)

❖ 父: 指示に従うが、場面については理解していない

❖ →ユウの意図するごっこ遊びの文脈は共有されず終了

### \*場面の切り替え\*

#### 【事例3】 いらっしやいませ（Y001\_026, 3歳0ヶ月）

01 ユウ: ▶ **いらっ(.)しやいませ::.**  
02 (5.0)  
03 ユウ: ▶ **いらっ(.)しやませ::.**  
04 祖母: は:い.待ってて:.

暗示的メタコミュニケーション機能:

❖ 挨拶表現や定型表現は役のままやり取りの局面を表示することに利用可能

❖ 買い物場面が開始したことを表示、客役の祖母が店に入るよう促す

#### 【事例4】 おいしい（Y001\_025, 3歳0ヶ月）

01 ユウ: これごはんじゃない?  
02 母: うん.ごはんできたできた.  
03 ユウ: ((**ごはんを手にとって眺め、折り紙の箸を取り出して食べる真似をする**))  
04 ユウ: ▶ **おいしい.い.((母に顔を向けながら))**  
05 母: **おいしい.い.よかった::.**  
06 ((折り紙の本を二人で眺め、次作ってほしいものをユウがリクエストする))

前文脈: 母親がユウの依頼で折り紙のごはんを作成

ごっこ遊びの開始:

❖ ユウ: 母がつくった折り紙のごはんを手を持ちしばらく眺め、折り紙の箸を無言で取り出し、ごはんを食べる仕草 (L03)

ごっこ遊びの終了:

❖ ユウ: 評価「おいしい.い. (L04)」を母に伝え母を巻き込む、終局のマーク

❖ →**食事し、作り手に評価を伝える**、という食事場面の典型的な流れを実践

❖ 母: ユウの発話をそのまま繰り返す (L05)

❖ →ごっこ遊びへの参加、評価の受け入れ

❖ →次に折り紙で作る作品を選び始める

### \*おわりに\*

- ❖ 扱いやすい場面、扱いにくい場面を区別せず、子どもたちの日常で得た知識や経験すべてがごっこ遊びの素材となり得る
- ❖ 当該場面や特定の役割に紐付いた挨拶表現や定型表現、典型的な振る舞いに関する情報を足場として、**相手参与者とごっこ遊びの設定を共有したり、交渉したり、局面を示し合うこと**を行っている
- ❖ 状況を口頭で自由自在に表現することにはまだ届かなくとも、持てる情報や表現を駆使してごっこ遊びは十分展開させられている
- ❖ やり取りに失敗する場合も含めて、ごっこ遊びという創造的な遊びの場は日常生活の中で子どもが行っている観察学習の成果を試し、修正、定着させる学びの場として利用されていることが本研究の具体的な振る舞いからも示唆される

謝辞: 本研究は国立国語研究所のプロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」および科研費20H01264, 20K20695, 22K13109の研究成果を報告したものである。  
文献: ◆小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・藤越・西川賢哉(2022)『子ども版日本語日常会話コーパス』の構築、『言語資源ワークショップ2022発表論文集』。◆小山優子(1998)「幼児教育における質的研究の方法論的一試案: 幼児のごっこ遊びの事例分析を通して」『保育学研究』36(2), pp.185-192。◆多田幸子・大田紀子・井上聡子・杉村伸一郎(2009)「3歳児における保育者参加型ごっこ遊び: 事例分析を通じた保育者の役割の検討」『幼教育研究年報』31, pp.47-54。◆松原乃理子・大瀧茜・織壁佐和子・富田貴代・深沢佐恵香・森末一代・舘川大(2022)「ごっこ遊び」研究の傾向: 保育実践を対象とした調査に着目して、『日本女子大学紀要 家政学部』69, pp.1-12。◆明神もと子(2005)「幼児のごっこ遊びの想像力について」『釧路論集: 北海道教育大学釧路校研究紀要』37, pp.143-150。